

## 授業改善等に関する報告書（2024年後期）

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2024（後期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
デザイン実習 b	下山 肇	学生からは「フォリーがどんなものなのか理解することができた」「普段注目しない部分を注目できるようになった」「日常の中から魅力的なデザインを見つけることが楽しくなった」といったコメントが寄せられ、本授業を通じてフォリーの概念を理解し、普段見過ごしがちな点に気づき、日常生活からデザインの魅力を発見する楽しさを実感するなどの学びの成果が見られました。また、授業アンケートの結果では、授業内容の理解度、進行スピード、説明のわかりやすさ、満足度がいずれも高評価でした。一方で「アドビやMacの使い方に関する資料があると助かる」という要望もありましたので、今後はその点を踏まえ、必要なサポート資料の整備を検討していきます。
デザイン実習 c	下山 肇	皆さんのコメントからは、MacBookのアプリケーションの使い方、画面構成の微調整、デザインのトーンや色彩の工夫、クライアントの要望に応じた作品づくりなど、この授業を通じて多くの具体的な学びの成果を得てくれたことが伝わってきました。授業の狙い通りにこれらのスキルを身につけてもらえたことを嬉しく思います。また、授業アンケートの結果においても、授業内容の理解度、進行スピード、説明のわかりやすさ、双方向授業の工夫、板書や配布資料のわかりやすさ、教員の声の聞き取りやすさで高い評価をいただきました。さらに、多くの皆さんがこの授業を通して自身の成長を実感し、授業全体に満足していることがわかりました。この授業で培った知識や技術を今後の学習や制作活動の糧にして、これからも積極的に取り組んでください。
デザイン入門 b	下山 肇	授業アンケートの結果および学生コメントから、本授業を通じて多くの学びが得られたことがわかりました。学生からは「先を読んで行動する力を成長させることができた」「モダンテクニックやファクツラの理解が深まった」「制作の過程で価値を見出す力がついた」などのコメントが寄せられ、先を見通して行動する力や新しい技法への理解、制作プロセスで価値を見出す力が養われたことが伺えます。また、アンケート結果では授業内容の理解度、進行スピード、説明のわかりやすさ、総合的な満足度においてもいずれも高い評価が得られました。さらに、授業を経て考え方に変化が生まれた、試行錯誤の重要性を実感したといった意見も見られ、これらの経験が今後の学習につながることを期待されます。
デザイン入門 b	下山 肇	授業アンケートの結果および学生コメントから、本授業を通じて多くの学びが得られたことがわかりました。学生からは「先を読んで行動する力を成長させることができた」「モダンテクニックやファクツラの理解が深まった」「制作の過程で価値を見出す力がついた」などのコメントが寄せられ、先を見通して行動する力や新しい技法への理解、制作プロセスで価値を見出す力が養われたことが伺えます。また、アンケート結果では授業内容の理解度、進行スピード、説明のわかりやすさ、総合的な満足度においてもいずれも高い評価が得られました。さらに、授業を経て考え方に変化が生まれた、試行錯誤の重要性を実感したといった意見も見られ、これらの経験が今後の学習につながることを期待されます。
絵画実習 b	織田 涼子	アンケートの回答はありませんでした。
絵画実習 c	織田 涼子	日本画の画材の扱い方や制作方法などを理解して表現する課題に対して、理解度や満足度は概ね良好で、自身の成長実感や、さらに学ぼうとする姿勢に繋がりが大変良かったと思います。板書や配布資料、説明の声は良い評価でしたが、実演を加えて分かりやすい説明となるように改善します。
絵画入門 b	織田 涼子	絵の具や道具の扱いに理解を深め、絵画表現の技能向上を目指す授業に対して、総合的な満足度が高く何よりです。多くの項目は平均的な評価で、板書や配布資料、実習の進行スピードは良い結果でした。今後は各課題の理解度が上がるように説明や双方向授業の方法を工夫したいと思います。
絵画入門 b	織田 涼子	さまざまな画材を扱う課題に対して意欲的に取り組み、自身の成長を実感できたことは何よりです。授業の理解度は良好で、双方向授業等への評価は概ね良いものの、授業の内容と方法は平均を下回る結果でした。今後は各自が見通しを持って制作できるように進行スピード等に気をつけます。
現代美術史入門 a	山本 浩貴	授業のわかりやすさなどはおおむね良好だったが、全体として、予習・復習の時間があまり長くなかったことが気になった。（授業内で示しているが）次回の予習と復習のための具体的な課題や参考文献などを終わりに再度確認するようにしたい。
西洋近代美術史演習 b	齋藤 達也	発表の仕方やレポートの書き方を身につけることができよかったというコメントをいただき、こちらとしても幸いです。卒業論文執筆に備えて、発表や文章執筆についての理解を引き続き深めていきましょう。
西洋近代美術史特講 b	齋藤 達也	象徴主義はとりわけ難しいテーマだったと思いますが、関心を持っている学生が多いことがわかり、これを扱うことができよかったと思います。この時代の様々な芸術運動を知ることができたかと思います。自分自身の関心の幅をぜひとも広げていってください。

[2024（後期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
西洋近代美術史入門 b	齋藤 達也	<p>ご意見をいただき、ありがとうございます。今学期の授業では西洋美術が抽象へと向かう過程を説明しましたが、具体的な作例にもとづいて示すことに努めました。</p> <p>いただいたコメントの中に、授業最後のレスポンのコメントに対するフィードバック時間では、雑談的内容が含まれているのに、なぜ途中で帰らせてもらえないのか納得のいく説明が必要、というものがあつたので以下に説明しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィードバックの時間は授業時間内でおこなっており、授業時間を延長しているわけではありません。</li> <li>・フィードバック時間内における雑談的内容は、2、3回の授業で1回するかしないかの頻度であり、する場合も合計2、3分以下に抑えています。</li> <li>・雑談的内容であっても、広く大学生活や西洋文化（ここには西洋の生活や食文化なども含む）に関わるのが大半なので、実際には授業内容と無関係ではありません。</li> <li>・授業途中やフィードバック実施中に退出する学生を直接引き留めたことはありません。途中退室する学生を見かけて何度か驚いた反応はしましたが、それは2、3年生の授業では途中で帰宅する人を見たことがないためです。</li> <li>・体調不良などのやむを得ない事情で途中退室するのは全く問題ないと年度初めの初回授業で説明してあります。</li> <li>・単に早く帰りたい・話が退屈という理由で出席確認直後の授業中に帰宅するのは良いことではないと考えています。ただし途中退室できている人がいることからわかるとおり、それを強制したことはありません。</li> </ul> <p>よろしく願いいたします。</p>
西洋美術史演習 b	駒田 亜紀子	<p>残念ながら回答がありませんでしたので、コメントできません。1年の授業を通じて身につけた様々なスキルを4年生の卒論執筆に活かしてほしいと思います。</p>
西洋美術史特講 b	駒田 亜紀子	<p>多くの学生さんが、それぞれの興味に惹きつけて、受講してくださったと思います。ありがとうございます。西洋の古い時代の美術は、その主題の物語が成立した時代と、その主題に基づき作品が制作された時代と、それを鑑賞する今日の私たちの時代という、三つの異なる時代の層を考慮して考察する必要があります。現代の価値観だけでは判断が難しい分野ですが、今日に繋がる問題意識を持って考え続けていただきたいと思います。</p>
西洋美術史入門 b	駒田 亜紀子	<p>西洋美術史入門bで扱う内容は、皆さんがどこかで見聞きしたことのある、有名な作品が中心ですので、その分、親しみを持って、受講していただけたことと思います。今後は、海外旅行の折に実物を鑑賞したり、あるいは国内の展覧会などで同じ作家の作品や、関連する主題の作品を見たときに、今回の授業の内容と関連付けてもらえると、より一層興味深く見ることができると思います。</p>
卒論ゼミ b	児島 薫	<p>アンケートの問いが卒論ゼミには適合しないものが多いので答えにくかったと思います。私の方で別の設問を作ればよかったのかもしれませんが。みなさんよく資料調査をおこなって書くことができました。この経験を自信として社会人として、あるいは大学院生として、進んでいってください。</p>
卒論ゼミ b	馬淵 美帆	<p>就活などで忙しい中だったと思いますが、受講者の皆さんは意欲的に取り組んでくれたと感じています。時間が限られている中で最後まで卒論を執筆、改善する作業を続け、完成できたことは素晴らしいです。</p>
卒論ゼミ b	串田 紀代美	<p>半年間おつかれさまでした。4年間の総まとめとしての卒業論文に本格的に取り組み、みなさんそれぞれが成果を出してくださったことを大変うれしく思います。考えを文章にまとめて日本語に綴ることの難しさを、多くの方が実感したことでしょう。うまくいった方、試行錯誤を重ね徐々にコツをつかみつつある方、何度やってもなかなかうまくいかなかった方、いろいろな方がいらっしゃったと思いますが、あきらめず最後まで粘り強く課題に取り組む皆さんの姿を目の当たりにし、私自身も大変刺激を受けました。同級生と協力し合い、切磋琢磨し、個々人が目標に向かって進む姿を私は大変誇りに思います。これから社会に出ても、卒論を完成したという自信をどうぞ忘れずに！今後のご活躍を願っています。</p>
卒論ゼミ b	駒田 亜紀子	<p>卒論執筆は、生涯で初めて、2万文字という長い文章を10か月かけて作成するものでした。初めは2万文字という途方もない遠い目標のように思えたかもしれませんが、計画的に少しずつ積み重ねることにより、達成できました。この達成により、自分の成長も実感できたと思います。今後もこの達成感を忘れずに、成長を続けてください。</p>
卒論ゼミ b	椎原 伸博	<p>回答者が一人のみなのですが、かなり自信をもって授業を受けたことが伺えます。卒業論文を書き上げた経験は、今後の生活においても十分役立てることが出来ると思いますので、自身をもってください。</p>

[2024（後期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論ゼミ b	武笠 朗	1名しか回答がなかったので、次回は必ず授業時間内に実施するようにしたい。卒論中間発表の際に、聴いている学生が直接発表者に質問感想が言えるように工夫したい。また卒論個人指導も回数を増やしたい。より直接的に指導が届くようにしたいと考えている。卒論執筆への早めの対応の重要性を学生にきちんと知らせたい。
卒論ゼミ b	齋藤 達也	2万字を超える卒業論文を書くのは、これまでに経験したことのない難しさだったと思います。卒論執筆の過程で身につけた調査力・思考力・執筆力をぜひ今後とも生かしてください。
卒論ゼミ b	織田 涼子	授業内容は理解でき、満足度が高く、安心しました。絵画の制作研究、卒業制作展覧会の企画・開催を通して、自身の成長を実感し、さらに学ぼうとする意欲に繋がりが大変良かったと思います。
卒論ゼミ b	下山 肇	アンケート回答無し
日本の美術 a	山本 浩貴	授業の理解度は高かった。予習復習時間の確保をするため、より具体的な課題提示を行うようにしたい。声の聞き取りやすさは意見が分かれていた。声の大きさは問題ないと思うが、ときどき早口になってしまうことがあるので、それを気をつけたい。
日本近代美術史演習 b	児島 薫	もう少したくさんの方から回答していただけるようにリマインドすればよかったです。よく授業に参加していましたから、自己評価をもっと高くしてよいと思います。春休み中にぜひいろいろ美術館をまわり、卒論のテーマに限らず知識、経験を広げてください。
日本近代美術史入門 b	児島 薫	通史的な内容なので後期は戦争の時代が中心になりますが、熱心に取り組んでくれました。初めて見る、聞く、内容が多かったかもしれませんが、ぜひ春休み中に東京国立近代美術館（所蔵品展は学生証で無料）、東京都現代美術館のコレクション展示などを利用して実作品を見てください。
日本美術史演習 b	馬淵 美帆	授業アンケートの回答率は低かったのですが、その範囲では、受講者の方におおむね満足していただけたようでよかったです。自分で発表を組み立てて行うことや、他の人の発表にコメントすることは社会に出てからも役立つ重要なスキルですので、今後も意識的に取り組んでいって下さい。
日本美術史特講 b	馬淵 美帆	オンデマンドの授業で受講しにくい点もあったかと思いますが、毎回の課題など、受講者の皆さんはとてもよく書いて下さっていたと感じます。皆さんからいただいた回答を元に、今後もオンデマンド授業の方法を工夫していきます。
日本美術史入門 b	馬淵 美帆	入門bの授業は情報量も多く、大変に感じた方もいたことと思います。この授業の内容は、入門aと同様、今後美術史を学ぶ上での基礎となるので、資料を見返したり図書館の本で復習するなどを積極的に行っていただきたいです。授業中は、この授業に限らず、自主的にメモを取ることを心掛けて下さい。
入門演習	串田 紀代美	半年間おつかれさまでした。1年生のみなさんにとって、入学初年にレポート・論文の書き方を学ぶことは、非常に大変なことだと私たち教員は十分理解しています。半年間、学びを継続できたみなさんは、忍耐力と継続力とともに、考える力、それを文章にする力が少しでも身についたのではないかと思います。今回学んだことを全部身につける必要はありませんが、今後レポートや発表、卒業論文の際に、ぜひ思い出していただければと思います。授業アンケートに関しても、多くの方が提出してくださいました。これについても、ご協力ありがとうございました。
入門演習	結城 佐織	アンケートにお答えくださり、ありがとうございました。結果を真摯に受け止め、来年度以降の授業に役立てたいと思います。大学生にとってレポート執筆は大変な作業ですが、必ず皆さんの今後の人生の糧になると思います。皆様の将来に幸が多いことを願っています。
入門演習	串田 紀代美	半年間おつかれさまでした。特に5限ということで、多くのみなさんには大変ご迷惑をおかけしました（翌日1限があった学生のみならず、本当に申し訳ありません）。1年生のみなさんにとって、入学初年にレポート・論文の書き方を学ぶことは、非常に大変なことだと私たち教員は十分理解しています。半年間、学びを継続できたみなさんは、忍耐力と継続力とともに、考える力、それを文章にする力が少しでも身についたのではないかと思います。今回学んだことを全部身につける必要はありませんが、今後レポートや発表、卒業論文の際に、ぜひ思い出していただければと思います。

[2024（後期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
美学演習 b	椎原 伸博	回答者が三人のみですが、概ね学修の成果をあげたようです。これから、卒業論文を仕上げていくこととなります。演習で学んだ、様々な資料を集めて、発表する姿勢は卒論の執筆に役立つと思います。他のゼミに行く人も自信をもって、卒論執筆頑張りましょう。
美学入門 a	椎原 伸博	授業コメントありがとうございます。特に、レジュメのわかりにくさ、ビデオの声の問題等、今後の授業で改善することになります。授業の公開期間を一週間に限定しているのは、集中して授業を受けて欲しいからですので、入門 b も同様に一週間に限定することになります。通常の授業はその回を逃すと、動画で配信されないことを考えると一週間で予習復習の習慣をつけてください。今後は試験前に全ての授業を再公開する方向で考えますが、とはいえやはり一週間で完結することが大事です。 さて、今回のアンケートでは、二回の対面授業の反応が良かったです。入門 b でも対面授業を取り入れますので、是非授業登録をお願いします。入門 b は美の理論を中心とする授業となります。
美術と社会 b	山本 浩貴	双方向授業の工夫が伝わっていて良かった。また、全体的な理解度も高く安心した。ほかの授業同様、予習復習時間の確保を工夫したい。授業の最後に、予習復習のための参考文献や資料をあらためて紹介するなど試みたい。
仏教美術史演習 b	武笠 朗	わずかに1人しか回答がなかった。毎回回答を促すのを忘れてしまうので、次回は必ず授業時間内に回答させるようにしたい。研究発表中心の授業だが、その際学生諸君の意見感想を直接聞けないのは問題かと感じている。時間の都合上、コメントペーパーを利用しているのだが、直接討論できるように何らかの工夫をしてみたいと考える。京都奈良方面への見学授業はたいへん充実したものとなったが、TAを含めての現地指導をもう少し充実させたい。
仏教美術史特講 b	武笠 朗	アンケート回答数が少なかったため、次回は授業時間内に必ず回答させるようにしたい。講義主体の科目なので、どうしても双方向性の確保が問題となる。授業内容の理解度を測るために、小テストの数を少し増やし、そのフィードバックに時間をかけるようにしてみたい。受講生諸君は、わからないことをそのままにしないで、質問だけでもmanaba等利用でこちらに届けて欲しい。
仏教美術史入門 b	武笠 朗	約3分の1の回答。いっぱいいっぱいでもむずかしいが、なるべく授業時間内に回答させるようにしたいと考える。双方向性の確保はいつも課題である。小テストを通じて質問等を受け付けているが、それへの返しを充実させたい。受講生諸君は、訊きたいことがあったら、manabaにどんどん書き込んで欲しい。みんながわからないことが何なのか、わかりたいと思います。
民俗芸能演習 b	串田 紀代美	半年間（1年間）、お疲れさまでした。みなさんの協力のおかげで、今年は「予備日」を使わずスケジュール内ですべてシラバスを実施することができました。授業アンケートでは、履修者のみなさんの成長が如実に現れておりました。結果ではなくプロセスが重要だということ、この授業を通して十分理解してくださったと思います。何よりもみなさん自身の成長の実感が、一番印象的でした。論文収集、論文を読解しまとめる技術、それを口頭で発表するコツ等、どれをとっても今後も再利用が可能です。授業に対し真摯に取り組んでくださったことを時折思い出し、励みにして下さったらうれしいです。
民俗芸能特講 b	串田 紀代美	半年間、授業を継続して下さったみなさん、お疲れさまでした。みなさんが古い時代の舞台芸術にあまり興味がないことはよく理解していましたが、せつかく西洋近代美術史に興味のある学生さんが本学科にはたくさんいらっしゃるの、同時代の文化事象を学ぶことで、より美術作品や歴史的な背景が理解できるのではないかという目的で、この授業シラバスを組みました。今年度はイレギュラーでインドネシア芸術大学の教授によるワークショップがありましたが、多くの方が快く協力してくださり、大変助かりました。これについても、みなさんに感謝したいです。ジャポニズムは、みなさんが考えているよりもっともっと複雑で広範に展開している文化事象です。これをきっかけに、折に触れジャポニズムについて考えていただけたら嬉しいです。
民俗芸能入門 b	串田 紀代美	半年間、オンデマンド型授業を視聴し続けることは大変だったと思います。継続して下さった学生のみなさんの努力をたたえたいと思います。授業アンケートでは、これまでにない細かいコメントが書かれており、たくさんの可能性を秘めた学生さんが授業を履修し、これまで学んできた知識を総動員し、考えを深めながらこの授業を学んでくださったことがよくわかりました。民俗芸能は地味で目立たない存在ですが、成立背景や現代社会での立ち位置をつぶさに見ていくと、大変興味部会「不思議」や「しがらみ」がたくさんあります。ポップカルチャーでみなさんには親しみのある事柄の源泉にもなっている場合も多いので、これからも興味をもっていただけたら嬉しいです。みなさんと、今後また授業で一緒できることを楽しみにしています。